じゃりみち

原本

…仮設支援情報…

第40号　　発行日 97.6.19

阪神・淡路大震災
「仮設」支援NGO連絡会
〒653　神戸市長田区御蔵通5-5
TEL:078-578-6921 / FAX:078-578-6923
E-mail:ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp
口座番号:01180-6-68556　(郵便振替)

事務所の横にきれいな赤色のあじさいを見つけました。花はいいですね、季節が感じられて。なんてのはおいといて、今月号は少し量が多めです。折り込み作業の人手がちょっとないため、見づらくて申し訳ないのですが、一枚ずつ入れてあります。ごめんなさい。

先月からの事務局の動き

5/17（土）	市川さん送別会
5/21（水）	事務局会議/ざっくばらん
5/22（木）	伊尾木小学校（高知）被災地視察受け入れ
5/23（金）	安田中学校（高知）被災地視察受け入れ
5/24・25	災害ネットワーク準備会in名古屋
5/28（水）	事務局会議/全体会
6/1（日）	与野南中学校（埼玉）被災地視察受け入れ
6/2（月）	事務局会議
6/3（火）	坂本中学校（岐阜）被災地視察受け入れ
6/4（水）	御蔵5－5の会（共生・共創センター）/ざっくばらん
6/11（水）	事務局会議/全体会
6/12（木）	東光寺チャリティーバザー（埼玉・入間市）
6/14（日）	バーチャル神戸in調布（東京・調布市）
6/16（月）	事務局会議
6/17（火）	御蔵5－5の会（共生・共創センター）
6/18（水）	ざっくばらん
6/25（水）	松原高校（大阪）被災地視察受け入れ/全体会
6/28（土）	村井くん講演（京都・京都市）
6/29（日）	大谷中学校（神奈川）被災地視察受け入れ

北朝鮮食糧危機に対して緊急支援を呼びかけます!!

前回のじゃりみちで呼びかけましたが、いまいち物資が集まっていません。まだ期間はありますので義援金・米・衣料・など、ぜひぜひご協力をお願いいたします。
問い合わせは…「仮設」NGO事務局

震災から学んだこと救援物資編 アンケートにご協力ください!!

のちほどきちんとした紹介がありますが、今回の震災から何を学ぶか？ということの第１弾として、救援物資の検証をし、本にしよう！という動きがあります。ボランティアに行ったひと、いけなかったひと、後方支援に徹したひと…様々な視点でこのアンケートに是非答えていただきたいのです。なにが課題でなにをきちんと検証せねばならないのか!?ちょっと他にはない本にしたいんです。

5月28日　全体会　全体会・ざっくばらんの報告

今回は、まずはじめにざっくばらんについての話し合い。最近のざっくばらんは雰囲気が堅くなりがちで、なかなか「ざっくばらん」に話せない。もう一度ざっくばらんを最初に戻そうよ、という提案がなされました。議題がなくても集まった方が面白いんじゃない？ということで、全体会がない週の水曜日には必ず開催。軽食と飲み物も持ち込み大歓迎で用意することにしました。

次は第4週の全体会での司会持ち回りについて。最近は総会関係の議題が多かったためずっと事務局が司会をしていたのですが、全体会の雰囲気に変化を持たせるためにも、持ち回りを復活しよう！という提案がなされました。これに対しては、全体会で議論することがきちんと消化できるよう、事務局提案の部分は事務局が担当し、その他の部分はやりたい人がいたらまかせる、また事務局の中でも司会を持ち回りにするという方向で話がまとまりました。他には情報交換と、提言・提案チーム、そして共生・共創センター（仮称）チームからの報告がありました。（チームの報告は別のページにまとめてあります。）

6月4日　ざっくばらん

前回の全体会を受けて、飲み物とお茶菓子を用意し、特にテーマを設けずにのぞんだざっくばらん。西代仮設の方が見えたことから、前半は仮設住宅の孤独死の話題を中心に話し合いました。仮設内ですでに20名を超す方が亡くなっていること、「生きて仮設を出よう」という言葉を合言葉にしている……など、仮設の方の話を直接聞くことで、改めて仮設住宅の置かれている厳しい現状と問題点を確認する機会となりました。

後半は、初参加となったコリアボランティア協会の方が被災地の中と外をつなぐ交通の活動をされているということで、仮設NGOの心の郵便局やかみひこうきさんのインターネット発信の話題も交えながら、交通を通じた支援の課題と問題点について話し合いました。各団体の持っている経験や体験談が披露され、今後の交通活動のあり方を考えていくきっかけになったと思います。とてもおもしろいざっくばらんでした。

····仮設支援情報····

6月11日　全体会

はじめは共同プロジェクトの枠組みの話題になりました。引っ越しプロジェクトと移送サービスは連携を考えてもいいのではないか、共同プロジェクトの「共同」は具体的な活動を共にするだけでなく、情報のやりとりやコーディネートなどを含めた広い意味で考えてはどうか？という提案がなされました。個別の団体が動くのではなく、みんなで足りないところを補い合って。それが共同プロジェクトという大きな枠でも同じだよーという感じですね。また、ファミリー神戸さんから移送サービスの中で関わり始めた仮設の男性をどこまでフォローすればよいのだろうか？といった声があり、こういった「ボランティアの関わり方」について下のような様々な意見が交わされました。

レスキューなら否が応でも連れていく、リリーフなら動くときにわずかながらの力を提供する、リハビリなら行きたかないのにわざわざ行かんでもいいし、行きたければ一緒に行けばいいのでは？

自立と支援のバランスを考えるべき。しんどくなったら一服するのも大事では。

来てほしいからいろいろ要求する。だから出来る範囲で関われば。また書類の申請に関わることで自分たちの勉強にもなる。

行政が関わるのは病人など。行政の対象外になる人が支援を求めてくる。

関われるところは関わって、力量を越えるところは他のグループの助けを求めたら？高齢の方については知識のある方にドバイスを頂くことも必要。

今まではがむしゃらに関わってきたが、これからは連携プレーが大切になる。

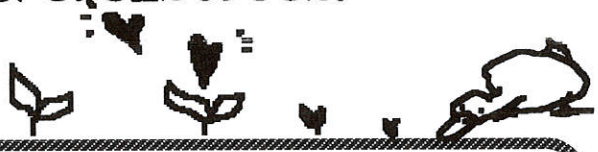
これらについて日を改めてもう一度話し合おう!!

他にはいつものように情報交換を行い、その後に共生・共創センターの報告、提言・提案チームの報告がありました。（別のページ参照）

6月18日　ざっくばらん

今回も前回に引き続き、テーマを設けないざっくばらんになりました。はじめは移送サービスや引っ越しの話、そこから仮設の現状、アルコール依存症、そして被災者の仕事づくり、銭湯、仮設住宅の統廃合の話題……と本当に盛りだくさんの話がざっくばらんに話されました。

仕事を通じた被災者とのつながりでは、プロジェクト結ふから仮設住宅の方と引っ越しや大工作業を共同で行っている例が紹介され、被災者の方がとても生き生きしている様子や、仕事の際の会話を通じていい感じのコミュニケーションが取れているという体験談を聞きました。また兵庫県加美町の間伐材を使った木工製品（開発中！）も紹介され、いろんな仕事を提案していけたら、という話になりました。



入らなきゃ！～入会のお願い～

阪神・淡路大震災「仮設」支援ＮＧＯ連絡会では、現在、被災地内外の65団体・個人の参加によって活動しています（賛助会員含む）。

これまで「仮設」ＮＧＯでは、全国キャラバンなどの際に頂いた寄付金や、各財団・企業からの助成金を、活動資金の主な財源としてきました。しかし支援活動が長期化する一方で、震災への関心は薄れつつあり、震災支援を目的とした寄付や助成は、今後、次第に少なくなることが予想されます。

そこで「仮設」ＮＧＯでは昨年度より会則を整備し、支援活動を行っている個人・団体のみなさまに当会への入会を呼びかけています。これは地域と共に活動していく上での協力者を募ると共に、会の運営に必要な資金を、会費収入によって安定的に確保していくという目的があります。

震災直後より様々な形で続いている支援活動もこの７月で２年半を迎えます。今後の活動の継続には、支援者のみなさまの力がますます大切になってきます。「人」が完全に取り残された形で進められている復興。私たち「仮設」ＮＧＯは、被災者の方と共に復興への道を歩んでいきたいと考えています。会員が会に望むこと、会が会員に出来ることを考えながら、一緒に今後の「仮設」ＮＧＯの歩む道を考えていきませんか？

（なお入会申込用紙および振込用紙は、今回の「じゃりみち」に同封してあります。）

♡♡問い合わせは事務局までお気軽にどうぞ♡♡

未使用　てれふぉんかーど、く・だ・さ・い♡

原本

《仮設は今...》

長田区編

生きて仮設を出よう。

-西代仮設の人々と生活-

あのいまわしい大震災から２年と５ヶ月が過ぎようとしています。多くの尊い命が、二度と帰らぬ人となり、炭となり、土となり。はかりきれない涙が今も流れつづけています。人々はこの震災で何を見、何を聞き、何を学んだのでしょうか？

私が西代の仮設住宅に入居してから25人の命が亡くなりました。現在西代の仮設住宅では205世帯、402名が毎日を懸命に生きています。仮設住宅住民の多くは毎日病院へ通院をしています。しかしこの度「病気は我慢せよ、金の無い者は死ね」と言っても過言ではない医療改「悪」法が成立し、病人が病院に行けない、病気を治す事が出来ないと言う状態になっています。あるお年寄りは言います。「わしら神戸で生まれて、神戸で育ち、神戸で一生を終わりたい」と。「でも仮設住宅では死にたくない」と···。今のお年寄りは仮設住宅では死ぬ場所さえままならぬと言うのが現実なのです。

震災から２年と５ヶ月。被災地の人々はもう流す涙は出し尽くしました。ここらで国は、政府は、涙をふくハンカチ「個人補償」を投げてくれても良いのではないかと思います。お年寄りの人生には先がありません。何らかの夢を希望をと願わずにはいられません。今の日本という国には希望は無いのでしょうか？　政治家は盗み放題、取り放題、値上げ放題。でも個人補償はしない。

一日も早く本当の意味での春が仮設住宅にもと願っています。テントで生活しようと仮設住宅で生活をしようと、住む場所が違っていても「生きる」という権利はみんな平等だと思います。

西代仮設住宅長寿友の会　長尾　政三

全国キャラバンひとくち日記

6/12　東光寺法要バザー（埼玉県入間市）

東光寺は埼玉県の入間市にあるお寺です。今回は真言宗豊山派埼玉3号仏教青年会の主催（共催：同宗務支所、後援：同布教師会）で、薬師護摩祈願とチャリティーバザーが開催され、お寺の駐車場にテント3つ分くらいのスペースを設け、たくさんの品物を広げて売り出しました。バザー用品はお寺さんの好意で１トントラック分くらい(！)頂きました。良い品物を多く頂いたこともあり、一日で半分くらいは売れてしまいました。

また門からの通路に震災の写真を展示し、多くの方々が〝まだ大変なのねぇ〟と目をとめていました。そのぶん冊子などの資料を買っていかれたり、釣り銭をカンパして頂いたりするなど、お客さんの関心も比較的高かったと思います。バザーや冊子、被災地グッズの販売で得た、231,342円を震災支援の活動資金としてご寄付頂きました。今後もこのような支援活動の機会を設けていただく話もあり、長く支援していただけそうな様子です。心からの支援を感じさせてくれる、東光寺のバザーでした。

6/14　バーチャル神戸in調布

（東京都調布市）

このイベントは国会に公的支援の法案が提出されたことをきっかけに、市民運動を盛り上げ、法案成立に結びつけたいという気持ちから、市民の関心を引くことを目的として行われました。

調布では今年の1月にも震災支援のイベントを開いたりするなど、被災地支援の活動に多くのみなさんが関心を持っている所です。ただ今回のイベントは駅から少し離れた住宅街の公園で、少し人手が少なめだったこともあり、立ち寄った方に「一体なにやってるの？」と聞かれたりしてしまいました。会場に設けたテント内では焼きソバなどの食品を売り、別のテントには足湯のコーナーやイラン大地震・北朝鮮食糧危機への支援を求めるスペースを設けました。神戸での体験ボランティアを語るコーナーもあり、10名程度で1時間ほどお話をしました。この日のために神戸から来た村井さんは、ちょっと目を離したすきに足湯マッサージでうれしそうにくつろいでいました。

ちびくろ関東ネット・相良　明子

提言・提案チームの報告

国会が6月18日に会期末を迎えたこともあって、公的支援に関する動きは非常にあわただしいものがありました。「提言・提案チーム」では、国会に上程されている公的支援に関する法案の審議入りと成案を求めるアピールを提案し、全体会の承認を得て5月30日に衆参両院議長に送付しました。しかしその後、野党３党（新進・民主・太陽）が衆議院に提出した「被災者支援法案」は廃案の公算となり、参議院に提出された市民＝議員立法案の「災害被災者等支援法案」も国会で審議されない状態が続きました。

そのような状況下で6月13日には、緊急アピールとして「災害被災者等支援法案」の速やかな審議入りを求める要望を参議院議院運営委員会に送付。その後、6/17付各紙の「災害被災者等支援法案、廃案」の見出しに冷や汗が背中を滑るような一幕もありましたが、6月18日に正式に継続審議が決定し、次期国会に望みをつなぎました。今後この市民案「災害被災者等支援法案」の動きが非常に期待されます。

「提言・提案チーム」では、これらの動きを加味しながら、私たちの視点を常に忘れずにこの「公的支援」の立法化に力を注いでいきたいと考えています。

また、もう一方で、「ボランティア」に対する提言活動も、第１回のチーム会議で話し合われ（今は公的支援の動きが中心になっていますが）、ボランティアというものはいったい何なのか、私たちの日常の中にどのような位置づけをしていくのか、また、ボランティアのボトムアップを図るのには、まず私たち「市民」の意識をもう一度検証する必要があるのでは？ という意見が出されました。今まで色んな形で報道され、さまざまな分野で活躍をしている「ボランティア」。そのボランティアを今一度考えてみるきっかけを作れればと考えています。

共生・共創センター（仮称）チーム

被災者の方の仕事つくりを中心としたこの共生・共創センター（仮称）ですが、６月はじめから事務局の隣の以前食堂をやっていたプレハブを改装しはじめました。以前が食堂だったんで、もう大変。油まみれ、ほこりまみれ。でもぼちぼち形になり始めています。そして中身については、課題の再確認や、いろいろな事業をどこまでどのように各団体さんが担えるのか、スタンスは？ などなど議論中。また販売などのアイデアもぼちぼち出てきています。仮設住宅でつくっておられる商品の販売とか、障害者の共同作業所の委託販売とか・・・。それぞれのつながりをフルに生かしていきたいと考えながらやっています。

で、ここでじゃりみちを読んでくださっているあなたにご相談 。このセンターの名前を募集します。被災者もボランティアも一緒に作り上げ、そして生きていくための場所、みたいな感じのイメージで・・・。共生・共創じゃちょっと堅いからね。ちょっといきなり考えるのは難しいかも知れないですが。それから次はもっと具体的なもの。**畳**。コミュニティスペースを畳にしたいのですが、少し数が足りません。どこかにないかなあ？ それから**ひ・と・で**♡♡ 日曜大工の好きな人、ペンキ塗りの大好きな人、そしてオープニングのイベントを考えてくれる人!!!!! 宿泊は元ＳＶＡ神戸事務所のプレハブ。昼食補助つき。その他については要相談。

ほかにも仕事つくりの一環としてぞうきん構想というのがあるんですが、全国からタオルを送っていただいてそれをぞうきんとして販売し、被災者の方への支援にしています。その新品のタオルも募集します。そういった中から、ぞうきんにするのはもったいないのでぞうさんの手拭きタオルに改造しよう！というアイデアも出て、なかなか楽しそうです。またもと靴職人の村井くんのユニークなアイデアでヒノキを使った商品も専門な人たちといろいろ研究していて、自分で言うのもなんですが、結構おもしろそう。ぜひぜひ。みなさまもこぞってご参加くださいませ。最後にああ、人手がほしい・・・。　以上でした。

災害ネットワーク

震災直後、多くのボランティアが現地入りし、様々な活動を行いました。それから２年と半年。この間にいろいろな災害が発生し、その都度多かれ少なかれボランティアが動きました。さて、その時阪神・淡路大震災の反省はいかされたのでしょうか？ 物資はどこへ送ったらいいの？ボランティアはどこへ？どんなことがマナーとして考えられるのだろう・・・・・？

そういった想いを持ったボランティアたちが去年の11月に実は神戸で集まっていたんです。なんと福島・栃木・神奈川・東京・静岡・長野・愛知・大阪・兵庫にある、22もの団体が集まることができたのです。その時に話し合われたのは、震災直後からのボランティアの動きでした。そこから出てきた様々な課題を、恒常的なネットワークの中で検証していき、今後の活動に役立てていこうということになりました。

それから約半年。今年の５月24/25日と、再び全国のボランティア団体に呼びかけをし、第２回の集まりが持たれました。参加団体は福島・栃木・東京・川崎・長野・愛知・神戸・福岡の16団体。場所は愛知県。内容としては、「救援物資」についてのアンケートの検討と校正、そして今後のこの集まりについてどうしていくかという話し合いでした。

救援物資の検証を担当した愛知の団体さんが何度も神戸に足を運び、頭をひねったアンケート用紙にたいして、各団体さんからいろんな意見が出されました。さらに今後この集まりを全国レベルの災害ボランティアネットワークとして立ち上げ用ようという声が挙がり、神戸を中心としたネットワークを基本に、全国のボランティア団体が連携して、いろいろな災害時の活動や、平時の行政・企業・マスコミ・ボランティア・そして市民への提言活動などをしていこうということが提案されました。また事務局も持ち回り制にしてはどうかというアイデアが出され、緩やかな責任を持った関わりを基本に、設立総会を名古屋で行おうということになりました。

また、次の検証内容として「ひと」をテーマにすることが提案され、福島・栃木・東京の３団体が担当することになりました。

アンケートに答えて送ってください。

とっても簡潔に見えますけど、中身はとってもとっても濃いんです。アンケートということで簡潔に表現してあるだけで、これらの返ってきたアンケートを元に、いろいろな立場の人のコメントや苦労話を随所に挟み込み、絵柄とかも入れて・・・・。けっこうすごいものができるんじゃないかなと思っています。ぜひ!!!!アンケートに答え、そしてみなさんの体験話や思ったことも添えて送ってくださいませませ。またここの団体に送ってあげたら？　という紹介もお待ちしております。お願いします。

タオル運動で被災者支援

阪神大震災で地震直後から救援活動を続けているボランティア団体「ぐるうぷ　えん」が「一本のタオル」運動を準備中です。

家庭で眠っている新品のタオルを寄贈してもらい、被災者やボランティアがミシンを踏んでぞうきんに仕立てます。これを全国の支援グループなどを通じて販売、売り上げを被災者の引っ越し手伝いなどの活動に役立てようという取り組みです。早速、会報などで協力を募り始めました。

えんがこれまでにお世話した引っ越しは約五百世帯。最初は被災者と一緒に倒壊家屋の中から家財道具やアルバムを掘り出して避難所などに運びました。季節が巡って引っ越し先は仮設住宅へ。最近は仮設から被災者向け公的住宅に移る人が大半で、毎日トラックで走り回っています。

地震から丸二年が過ぎ、住宅復興もようやく本番。ますます出番が増えそうですが、トラック維持費や事務所経費に年間二千万円余りかかります。でも、そのお金集めだけが、タオル運動の目的ではありません。

「新しい家に移っても、お年寄りの暮らしの立て直しには時間がかかります。被災地を息長く支え続けるためには、気軽に、どこでも、誰でもできる支援活動が必要なんです。タオル運動がその一つになれば。一本のタオルで被災地とつながっていることを実感して下さい」と村井雅清代表（46）は呼び掛けています。

震災で、重油事故で盛り上がったボランティアの機運。肩ひじ張らない、「円」のようにまーるい気持ちの活動がふくらんで、人と人との縁がどんどん広がっていけばいいですね。

タオルの送り先は〒652神戸市兵庫区中道通2-1-10、ぐるうぷ　えん（078-576-3693）へ。

読売新聞4/28抜粋

情報コーナー

シンポ・会議

♣6/25（日）
共同プロジェクト「つなぐプロジェクト」会議
場所：仮設ＮＧＯ事務所　時間：16：00～
引っ越しに関わっている団体は参加してください。
問い合わせ：事務局078-578-6922

展示・劇

♠7/13（日）～27日（日）
“小さな瞳が見た1・17”阪神大震災児童画展
震災で親を失った子供たちにエールを！芦屋市震災維持支援・チャリティ展覧会
場所：岸城神社　岸和田市岸城町11-30
入場料：無料　会期無休　9：00～17：00
『岸和田こころの集い·震災とボランティアを語る交流会』
7/27（日）　15：00～
ゲスト：山本美代子さん（仮設住宅住民・ボランティア）
主催　：岸和田こころの集い　芦屋児童美術教育研究会
問い合わせ：0724-22-0686（阪井健二）

◆「ほっとライン」チャリティー美術展
（「震災ボランティアと市民」パネル展示）
・7/15（火）～20（日）らいとぴあ２１
（箕面市立萱野中央人権文化センター）
・8/12（火）～17（日）京都同時代ギャラリー
・8/28（木）～9/2（火）大阪デイリパ（大阪ガス生活誕生館）
問い合わせ：06-717-7301　コリアボランティア協会

その他

★7/5（土）·6（日）
ハンディキャップテニス総合講習
場所：大阪府立門真スポーツセンター（なみはやドーム）大阪府門真市大字三つ島308-1
主催：日本ハンディキャップテニス連盟
問い合わせ：上記事務局
〒242神奈川県大和市深見台2-13-17サンプリハイツ103
☎0462-62-7806　ｆａｘ0462-62-7487
障害者が楽しめるテニスです。みんなでテニスを楽しもう！

♥大きな冷蔵庫ください！
復興公営住宅の明和住宅集会所で使います。
提供してくださる方はプロジェクト1-2有光まで
（携帯030-67-20024）
よろしくお願いします！！

各団体さんの活動日誌

各団体さんの活動日誌
6/12（木）
各ご家庭へ生活支援“りりーぶの会”（プロジェクト結ふ）
6/13（金）
仮設住宅訪問/大和・寿・高羽仮設（大阪ＹＷＣＡ）
親子教室“ラブライフワーク”/すくーるすばる（プロジェクト結ふ）
6/14（土）
訪問支援活動/西区仮設住宅（週末ボランティア）
6/16（月）
13：00趣味の日/荒田公園ふれセン（シティライト）
仮設住宅訪問/西宮市枝川仮設（大阪ＹＷＣＡ）
6/19（木）
各ご家庭へ生活支援“りりーぶの会”（プロジェクト結ふ）
6/20（金）
仮設住宅訪問/大和・寿・高羽仮設（大阪ＹＷＣＡ）
老人昼食会/武庫荘北会館（都市生活復興センター）
バザー“エブリー”/枝川町仮設（プロジェクト結ふ）
手芸教室「しじみちゃん」/枝川町仮設（プロジェクト結ふ）
看護婦による健康診断/枝川町仮設（プロジェクト結ふ）
6/21（土）
訪問支援活動/西区仮設住宅（週末ボランティア）
バザー“エブリー”焚き出し“カレーライス”/鳴尾浜仮設（プロジェクト結ふ）
手芸教室「しじみちゃん」/鳴尾浜仮設（プロジェクト結ふ）
看護婦による健康診断/鳴尾浜仮設（プロジェクト結ふ）
個別訪問「どないでっか」/鳴尾浜仮設（プロジェクト結ふ）
6/23（月）
13：00趣味の日/荒田公園ふれセン（シティライト）
仮設住宅訪問/西宮市枝川仮設（大阪ＹＷＣＡ）
6/26（木）
バザー、手芸、出張理容室他/西宮浜ふれセン
（都市生活復興センター）
昼食交流会、青空市/伊丹・荻野仮設
（都市生活復興センター）
観劇ツアー“チャンバラ隊”/大阪オーエス劇場
（プロジェクト結ふ）
各ご家庭へ生活支援“りりーぶの会”（プロジェクト結ふ）
6/27（金）
仮設住宅訪問/大和・寿・高羽仮設（大阪ＹＷＣＡ）
親子教室“しゃららん”（プロジェクト結ふ）
6/28（土）
訪問支援活動/西区仮設住宅（週末ボランティア）
6/30（月）
仮設住宅訪問/西宮市枝川仮設（大阪ＹＷＣＡ）

☆☆はじめまして。「かみひこうき」です。☆☆

私たちは震災から３年目を迎え、全国になかなか伝わりにくい被災者の生の声をインターネットを使って情報発信しています。被災者の方の中には未だに元の生活に戻れず、避難所や仮設住宅で暮らす方々や、復興住宅へ入居したり自宅を再建してもなお精神的に立ち直れない方々がおられる一方、震災のダメージから立ち直り、復興に向けて力強く歩んでおられる方々などその現状は様々です。

しかし、被災地以外では震災についての記憶が薄れているだけでなく「もう復興しているのでは」「公的支援を要求するなど甘えている」「仮設住宅で家賃がただなのに文句を言うとは何事か」などの声も出てきています。このままでは被災者と被災していない人々との隙間は広がるばかりです。

そこで、私たちはこの隙間を埋めるため、被災者の方々から手紙（料金受取人払いの封筒付便箋）を集め、それをインターネット上で掲載し、その手紙を読まれた方からはメール（お便り）を頂き、被災者の方々に伝えています。手紙のやり取りの中で新しい心のふれあいが生まれる場をつくっていきたいと思っています。

この４月からホームページを開設し、これまで９人の被災者の方々からのお手紙を掲載しています。「心身とも疲れ、早く恒久住宅に移りたい」「家を建てるにも資金が無く、市からは貸してもらえない。それでなおかつ土地の税金は払わなくてはなりません」など今なお厳しい状況にさらされている声や「でも私たちは頑張って生きます「今はボランティアに入り、人を励ましたいと頑張っています。」と力強く生きていこうとしておられる方々の声が寄せられています。また、これらの手紙を読まれた方からの返事も返ってきています。

ホームページURL　http://www.kh.rim.or.jp/~ktoshio/hiko-ki/

被災者からのお手紙をお待ちしています。また、1.便・を被災者の方へ渡してくださる方を募集しています。ご自身の近くに被災された方はおられますか？　仮設住宅、復興住宅が近くにある方はおられませんか？2.お手紙をインターネットにアップするお手伝いをしてくださる方はおられませんか？3.お手紙をインターネットにアップするお手伝いをしてくださる方はおられませんか？　4.便・を安く印刷してくださるところ、上を安く提供してくださる方ご紹介ください。